

イエスのことば

聖書フォーラム みやま集会

2020年7月11日

出典：“The Life of The Messiah vol.2” Arnord G. Fruchtenbaum, TH.M.,PH.D.

1

イエスのことば（第4回）

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。
天が開けて、神の御使いたちが人の子の上を上り
下りするのを、あなたがたはいまに見ます。」

（ヨハネ1：51）

2

文脈の確認

- メシアはユダヤ人の王として来る
- 神がイエスをその王であると認めた出来事 3つ
 1. ヨハネから洗礼を受けたときに神の声が天から響いた
 2. 荒野でサタンの誘惑を受けてこれを退けた
 3. 先駆者ヨハネがイエスをメシアであると証言した
- 本日の「イエスのことば」は、3番目の出来事に続いた初期の弟子たちとの対話の中

3

本日のアウトライン P.1

- A) 先駆者ヨハネによる証言
 1. 指導者たちに対して
 2. イエスを指して
- B) 初期の弟子たちの信仰
 1. 最初の5人の弟子たち
 2. ナタナエルといちじくの木

4

A-1 指導者たちに対する証言 P.1~2

ヨハネ1：19~28

1. メシア運動に対する調査：観察 **審問** 判定
2. 19節「祭司とレビ人」が派遣された
 - 大祭司、祭司長たち、サドカイ人
 - サドカイ人とパリサイ人（復活の論点、マタイ22：23）
 - 22節「私たちを遣わした人々」 = ユダヤ議会
 - 24節「パリサイ人の中から遣わされた」

5

A-1 指導者たちに対する証言 P.3

3. ヨハネの3つの否定証言
 - ① 20節 キリスト（メシア）ではない
 - ② 21節 預言者エリヤではない（マラキ4：5）
 - ③ 21節 「あの預言者」でもない（申命記18：15~18）
4. 22節 調査団「あなたは自分を何だと言うのか」
5. 23節 ヨハネ「メシアの先触れである」
6. 25節 調査団「なぜ洗礼を授けるのか」

6

A-1 指導者たちに対する証言 P.3

7. 26～27節 ヨハネの証言

- ① 私は水でバプテスマを授けているが（→マタイ3：11）
- ② あなたがたの中に立っておられる＝メシアはすでに来て
いる。しかし、あなたがたはまだ、その方を知らない。
- ③ その方は私のあとから来られる方で、私はその方のくつ
のひもを解く値打ちもない（私など比較にならない）

8. 28節 この出来事があった場所

7

A-2 イエスを指しての証言 P.3～4

ヨハネ1：29～34

1. 29節 その翌日＝調査団に対して証言した翌日【イエ
スは、荒野での誘惑を終えて戻って来たところと推定
される、40日の断食のあとである】
2. ヨハネの証言
 - ① 見よ、世の罪を取り除く神の小羊（過越の羊、イザヤ53章）
 - ② 私が言っていたのは、この方のことである
 - ③ 私もこの方を知らなかった。神のお告げを受けていた。
 - ④ 私はそれを見た。それでこの方が神の子であると証言している。

8

B-1 最初の5人の弟子たち P.4~5

ヨハネ1：35~46

1. 一日目

- ① その翌日=イエスを指しての証言の翌日
- ② 先駆者ヨハネは二人の弟子たちに「見よ、神の小羊」
- ③ 二人は、ヨハネとアンデレ
- ④ 37節 二人は、イエスについて行った
- ⑤ 38~39節 二人はイエスの弟子となった
- ⑥ 「時は十時ごろであった」
- ⑦ アンデレは、兄シモンをイエスに紹介した。シモン→ペテロ
- ⑧ ヨハネ、アンデレ、ペテロ の3人

9

B-1 最初の5人の弟子たち P.5

2. 二日目

- ① 43節 その翌日、イエスはピリポに声をかける
- ② 44節 ピリポは、ガリラヤ地方のベツサイダ出身
アンデレとペテロの兄弟と同郷
- ③ 45節 ピリポは友人のナタナエルに伝える
疑う友人に、議論せず「来て、そして見なさい」

10

B-2 ナタナエルといちじくの木 P.5

ヨハネ1：47～51

1. 47節 「これこそ、ほんとうのイスラエル人だ」
2. 48節 「どうして私をご存じなのですか」
3. 48節 「あなたはいちじくの木の下にいた」
4. 49節 「あなたは、神の子です。イスラエルの王です。」

11

B-2 ナタナエルといちじくの木 P.5～6

5. この対話を理解するためには
 - ① 「イスラエル人」で「その人のうちには偽りが無い」と言えば、その第一人者は民族の始祖ヤコブ
 - ② 「いちじくの木の下」とは、ユダヤ人が学んだ聖句を復唱し暗記し、瞑想する場所
 - ③ イエスのことばは、ナタナエルの心の中にあったことを言い当てた

12

ナタナエルの心の中にあったこと

- 彼は、いちじくの木の下で、創世記のヤコブの記事の箇所を暗唱し、それを瞑想していた
- 彼は、ヤコブについて、「ヤコブは、ほんとうのイスラエル人だ。この人のうちに偽りはない」と思いを巡らしていた
- イエスは、自分の心の中にあったことを見抜いた

13

B-2 ナタナエルといちじくの木 P.6

6. 51節 【ナタナエルが創世記のヤコブの記事を瞑想していたこと】を改めて示すことは、同時に【メシアの王国に関する預言】

- ① 創世記28：12
- ② 天使たちが「人の子の上」を上り下りする。
- ③ この情景は、メシアの王国の預言
- ④ 天が開け、天の神の御座と地上のメシアの王座の間を天使が行き来する

14